

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1090100353		
法人名	特定非営利活動法人 三和会		
事業所名	グループホームしょうわ		
所在地	群馬県前橋市昭和町2丁目1番2号		
自己評価作成日	平成26年8月18日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

業務に専念するのではなく、利用者様とゆったりと過ごしながらコミュニケーションをとり、信頼関係を築けるように努めている。また、外出や施設内での行事などなるべく楽しみごとを多くし、有意義な日々を過ごして頂けるよう工夫している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2		
訪問調査日	平成26年9月8日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人は市内で2つのグループホームを運営し、当グループホームは小規模多機能型事業所と併設で開設し1年が経過した。2階がグループホームである。事業所内には脱衣所内を含み5つのトイレがある。自立支援の援助として大きな部分を占める排せつ介助をスムーズに行えるように、利用者が待つことなく、待たせる言葉を発するリスクもなく使用できる体制がある。また、共用空間は工夫次第でその役割は大きい。ベランダは広く、廊下も広く長い。その使い方気分転換やリハビリに効果的と考える。これも自立支援に繋げることができる。最後に開設1年目の立場から前向きな姿勢が運営者・管理者・ケアマネジャーから伺えた。今後も求められているサービスについて評価項目を目標に職員一丸となって頑張りたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関に掲示し、常に目に入るようにしている。また、日頃の指導も理念に沿って行っている。	法人の理念を共有している。尊厳を守り利用者を対等に支援することを話している。慣れてくると曖昧になりがちの部分もあり注意しながら、地域といかに触れ合っていくかを考えながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域の方からイベントを教えて頂いて参加したり、地域の学校からも慰問に来て頂いた。また、施設のイベントの手伝いをして頂くこともある。	地域のうどん屋を利用し、中学生には慰問に来てもらっている。「しょうわ祭り」を開催し、認知症110番の広告を配布した。高校のダンス部の慰問を駐車場でやり、豚汁やお稲荷さんをふるまう等で地域に周知してもらおう努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症110番として回覧板で呼びかけ、いつでも相談して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・利用者家族が発言しやすい環境を整えるとともに、記入用紙を設置し意見や苦情等があった場合、その都度職員全員で検討改善している。	小規模事業所と合同で、定期的開催され、家族・地域住民・民生委員・市担当者が出席している。活動報告・事業所の現状・利用者状況を報告し、認知症について等意見交換がされている。議事録は家族に渡していない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者出席のもと運営推進会議を行い、施設の実情報告をしている。また不明な点があった場合は聞いている。	ボランティアポイント制度の利用者を受け入れている。市とは開設時のやり取りやケアマネジャーが更新代行で伺い、「災害時の高齢者・介護が必要な人の避難施設」として市と提携を結んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束をしないという考え方を職員全員で理解している。また、会議等でどういった事例が身体拘束になり得るのかをその都度話している。	共通の玄関は開錠されているが、階段を上がり事業所に入る玄関は施錠している。具体的な行為についての学習はケース会議時に管理者から話している。	ふらりと出かける人の特徴の把握や意識を逸らす工夫を行いながら開錠に向けて努力をしてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で高齢者虐待について身体拘束と併せて話している。今後は研修にも積極的に参加し、その知識を職員全員で共有し防止に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後は研修に積極的に参加し、必要な知識を身に付け活用できるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書等の説明を十分に行い、質問をしやすい環境づくりを心掛けている。また、改定時も十分な説明を行い署名・捺印をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で運営に関する情報も公表し、頂いた意見を検討後反映させるようにしている。また、日頃から意見・要望を伝えやすい環境づくりを心掛けている。	利用者とは目を合わせて、ゆっくり時間をかけて話を聞くことを心掛けている。家族からは訪問時に主に管理者とケアマネジャーが日常生活を報告しながら希望や困っていること等を口頭で聞いている。	開設間もないので家族に事業所の意義とサービス内容をよく知ってもらう必要もあることから、まずは本人と家族の希望や意見を多方面からアプローチして収集して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議の際に意見を職員全員で検討し、反映させるようにしている。	会議開催前に話し合いたい事を事前に用意しておくことを申し合わせている。介助の仕方等意見が出て、その利用者にとって良い方法を話し合い支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく職員の希望に沿い、勤務形態や働きやすい環境を整えられるよう努力している。また、会議等で皆で話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力や力量を把握し、随時指導している。また、個々に合った研修へ参加できるよう環境整備をしていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の研修に参加し、他施設職員との交流が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせて頂きご本人の意向を十分に聞いたり状態を把握し、入所後もコミュニケーションを十分にとってより良いサービスの提供ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前訪問やその後の面会時にご家族の心配ごとや意向を伺い、より良いサービスの提供ができるよう配慮するとともに、安心して相談して頂けるような関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を十分理解した上で、色々なサービスの方法を考え提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員と一緒に生活しているという意識を持ち、支え合いながら生活していく関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのコミュニケーションを密にとり、ご本人の症状をご家族も理解しながら、一緒に支えていけるような関係が作れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく会いに来て頂けるような言葉掛け・環境づくりを心掛けている。以前住んでいたアパートの近隣の方が面会に来られている方もいる。	家族や友人の訪問・外泊や外出支援等で好きなことや会いたい人との関係が途切れないように協力を得ながら支援したいと考えている。前橋七夕祭りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士が楽しく生活できるよう環境作りをするとともに、一人ひとりが孤立せず円滑な関係が築けるよう職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を継続できるよう、何かあればいつでも気兼ねなく相談して頂けるように言葉掛けをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話からご本人の意向を汲み取ったり、日頃の観察から感じとったことを職員全員で検討して支援している。	職員が担当性になっており、利用者からは日常の会話や様子から意向等把握している。ケアマネジャーが個別に聞き取りを行ったり、家族からは面会時や電話等で確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にケアマネージャーから情報をもらい、不足部分をご家族に伺って出来る限り把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが観察やコミュニケーションから気付いたことを朝のミーティングなどを利用して情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望を取り入れ、職員全員で話し合い工夫しながら介護計画を立てている。	月1回実施のモニタリング及び3ヶ月に1回のアセスメントを基に定期的な見直しは3ヶ月毎に行われている。状態変化等の際は関係者と話し合い、随時の見直しに基づいて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア方法の成功例や失敗例をノートに記載し、情報共有できるようにしている。また、それをミーティングやケース会議にて話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望に合わせて、その日の状況に応じて柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の得意不得意を探りながら家事援助やレクリエーションを提供し、役割意識を持って頂けるような生活を送ることができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望に沿った医療機関の受診をして頂けるよう支援している。	入居時にそれまでのかかりつけ医の継続か事業所の協力医にするかを選択できることを説明している。家族に協力を願い受診支援をお願いしている。緊急時は事業所で支援できる。必要時には訪問歯科受診ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々状態の変化を観察し、気付いた変化を随時看護師に相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、看護・介護情報提供書を作成し病院へ渡している。また、退院に向けてご家族と定期的に連絡を取り合って状況を把握し、早期退院できるような環境作りを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合について説明し同意書を頂いている。また、状態の変化により終末期を考える必要が生じてきたら、再度説明を行い方針を共有している。	事業所としての指針がある。本人や家族からの希望があれば主治医に相談し、家族にできることとできないことを伝え、段階に応じて話し合うことを申し合わせている。今後は職員の研修も必要と考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケース会議やミーティングなどで、急変時や事故発生時には代表者・管理者へ連絡し指示を仰ぐよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は全職員が経験できるように人員配置をしながら行っている。地域の方たちには、運営推進会議などを通じ協力をお願いしている。	25年9月消防署立ち会いの訓練と26年度は2か月に1度・職員と利用者が参加して昼夜想定自主訓練を実施している。備蓄として水を用意している。	自主訓練を重ね、利用者の動きを把握することや、職員がスムーズに避難誘導できるようにしてほしい。備蓄の充実もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はお世話をさせて頂いているという意識を持ち、一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けや対応をするよう徹底している。	人生の先輩という敬う気持ちを持ち、利用者の自尊心を保てるように言葉かけや利用者同士の相性にも気を配り対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	援助の際は自己決定できるような声掛けでご本人に伺ってから行っている。また、日常の中でもご本人が思いを表出できるよう傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を中心に考え、それに合わせて業務を遂行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人らしく身だしなみを整えられるよう、伺いながら援助している。また、ご本人の好みをご家族に伺ったり、観察しながら把握できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃一緒に食事を摂り意見を伺いながら反映させている。また、季節のおやつレクや食事の特別メニューも、作って食べる楽しみとなっている。日頃から後片付けも役割として行っている。	宅配業者により献立は決められているが、誕生会や企画により、変えられる。ボリュームや野菜が少ない日は1品追加することもある。飲み物はコーヒーや紅茶・緑茶等用意して自分で好きなものを飲める。職員は利用者と同じものを一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定、チェック表での摂取量の管理、食習慣を踏まえ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力・口腔内の状況に応じて支援している。舌苔が付かないよう舌磨きも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握したり、残存機能を維持・向上できるように援助を行い、出来る限り自立に向けた支援に努めている。	トイレの数は5つあり自立に向けた支援で尊厳を大事にする体制がある。居室にもポータブルトイレが置いてある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、看護師と相談しながらその方に合った排便コントロールを行っている。また、水分摂取の工夫や野菜を多く摂れるよう食事の工夫も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する曜日・時間は決まっているが、ご本人に伺いながら時間を調整したり、毎日入浴したいという希望のある方には臨機応変に対応している。	月・水・金と火・木・土に分かれて午前中から午後にかけて週に3回の支援をしている。入浴をしない日には着替え・清拭を行っている。	入居時の希望を大事にすることや、日々入浴ができることをお知らせし、その日その日の希望で支援してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況や生活習慣、その日の状況に合わせて休むことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに薬の内容書を綴っており、いつでも確認できるようになっている。症状の変化が見られたときは、随時看護師と相談し主治医に上申している。服薬支援はマニュアルがあり、それに沿って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からその方の趣味や嗜好を探ったり、ご家族の面会時に伺っている。また、継続しその方に合った家事援助を提供し、役割意識を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人暮らしをしていたアパートに行きたいという希望がある方や、散歩などの希望に状況により対応している。また、定期的に外出できるように行事を企画している。	散歩に出かけている。行事では花見のドライブや駐車場で慰問を楽しむ機会がある。	日常的に外出の機会を持つことや、ベランダを活用し気軽に外の風に当たる機会にしてほしい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に施設が行っている。希望がある方はご家族と相談の上所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は、ご家族と相談の上やり取りできるよう支援している。携帯電話を所持されている方もおり、必要時使用の援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるようにカレンダーを利用者様と手作りしている。また、照明や空調も利用者様と相談し調整している。	廊下の両側に居室がある。キッチンの前にテーブルが横に並んでいる。畳のスペースやソファとテレビのコーナーがある。共用空間から広いベランダに出ることができる。居室や共用空間の窓から近所の様子や空や雲等景色が良く見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置しており、気の合う方同士一緒にテレビを見ながら会話をしたり、お一人でゆっくりくつろいだりと自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある使い慣れた家具や道具をお持ち頂けるようお声掛けし、なるべく今までと変わらない空間づくりができるよう支援している。	部屋丸ごと引っ越ししてきた利用者もいる。読書灯や衣類・机や本棚が自由に持ち込まれ、その人らしさで活かされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の席に名前を付ける、トイレの表示・電気をつけておく、居室に表札をつけるなどして、意識づけをして「できること」「わかること」を維持できるよう工夫している。		